



# 宍粟の 人



作品展会場の田崎夫妻

黙々と木槌をたたき、枯竹から紙を漉く人。竹紙と竹紙を使った工芸品、竹筆などを工房に展示しています。



湧き水の豊富な一宮町百千家満に親交のあった作家故水上勉氏命名の工房「夢中庵」を持つ。くる日も来る日も一人竹やぶに入り竹と語り竹を切り出す。竹は竹筆に竹紙に、又、草木で染め創作する。工程中、時には自然に思わぬしつべ返しをされる事もある。苛立ち・逃げ出したくなる思いにとらわれる…が…竹と竹とがもみ合い、もつれ、からみあい作品に変化していく。無心になり、ただ竹とむきあう、竹が修行をさせてくれる。竹筆に、竹紙に、脈々とした命が宿っていく。その中に己がとけていく。切なくなるほど優しい気持ちになる。

(工房)

田崎 博和

住所 一宮町百千家満  
電話 74 0955



自然保護のため再生紙を利用しています。



大豆油インキで印刷しています。